

【その他、お寄せいただいたご意見の一部ご紹介】

アンケート

○うれしかった手助けやことば

- ・カラオケ店：「また、きてください」といわれました。やさしくせっしてくださいました。（回答者：生徒）
- ・コンビニ店：「どんどん（息子さん）一人で買いに来てください。」
- ・理容師さん：やさしい言葉かけで息子が興味を持ったもの（霧吹きやブラシなど）をやらせてくれて、空間の認知もゆっくり見守ってくれました。
- ・携帯販売店：本人の説明が上手にできなかったのですが、スタッフの方が丁寧に対応して下さり、嬉しかったです。話しをすると知的障害であることがわかると思いますが、"説明してもわからない"という感じがなく、丁寧に説明してくださいました。
- ・レストラン：バギー使用の子供と昼食時、スタッフの方が入りやすいテーブルを案内してくれました。

●困ったり嫌な思いをしたりしたこと

- ・電車：ちょっと混んでいたのになんでこんな時間に車いす？という顔をされました。やむを得ず乗っているのにスムーズに乗せてほしいです（何台か待ちました）。
- ・電車内や駅構内：動作がおそかったり、座り込んでしまう息子に舌打ちしたり、「子どものしつけはキッチンとしろ」と言われたりしました。理解してほしいです。
- ・E V：先に車いすでエレベーターに乗っていて、詰めるのはむずかしいのに端に寄れ！と言われました。本当に困っている人だけ利用してほしい。2・3回乗るのを待つ事も多いです。
- ・バス：障がい者手帳を見せ、当時妊娠中でお腹も大きいのに、「ベビーカーはダメです」と子どものバギーを降ろすのを手伝ってくれず、スロープすら出してもらえませんでした。
- ・公園：うちの子だけ公園遊びの仲間に誘われてもらえませんでした。障害の子のことを理解してもらうのはすごく難しいとつくづく思いました。

インタビュー

○うれしかった手助けやことば

- ・小児科：先生が「お母さん一人で抱え込まず、なんでも周りに相談しなさい」といつてくれたのがうれしかったです。
- ・幼稚園：入園にあたり、お子さんの車いすは障害とは思わない、いろいろなお子さんがいる中での一人である」との説明を受け、そのような姿勢を貫いてくれました。
- ・副籍交流：子どもが3年生に上がる際、担任の先生の配慮で2階の3年教室ではなく1階の多目的スペースで交流を行うことにしてくれました。
- ・バス：いつも友達と乗っていますが、その友達がいない時、降車ボタンを自分で押す勇気が出せず、それに運転手さんが気づいてくれて降ろしてくれました。

●困ったり嫌な思いをしたりしたこと

- ・障害者等用駐車場：本当に必要な私たちが使えないことがよくあります。
- ・E V：健常者は便利ツールとして使いますが、車いす使用者にとっては必需品で絶対に必要なものなのに、健常者が先に乗ってしまいます。
- ・トイレ：ベビー用のベッドはあれだけ浸透してきているのに、大きいベッドはとても少なく困ります。
- ・児童館：小さい頃の刺激はとても大事で、家では出来ないこと、広いスペースだから出来ることなどあり、同じ年齢の子と過ごすしたり、ママ同士の関係も築けるのに、近くの児童館は段差があって入れないのはとても残念です。
- ・習い事：てんかんがあるから無理と断られてしまいます。

「なにか嫌なことに会おうと、もう行かないとなってしまうがちですが、施設側と一緒に考えようとしてくれれば、また行こうと思えるのではないのでしょうか」

本区では平成27年度にバリアフリー基本構想（全体構想）を策定し、平成28年度は赤羽地区、平成29年度は滝野川地区、平成30年度は王子地区の地区別構想の策定に取り組んでいます。地区別構想の策定にあたっては、区民によるまちあるき点検も毎回実施しており、来年度の王子地区も予定しています。北区HPでは、このまちあるき点検の参加者を募集したり、策定にあたってはパブリックコメントを受け付けていたりしますので、北区のバリアフリー整備に向けて、今後とも皆さまの積極的なご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。